

最終発表

～みらいに繋ごう～

チームたすき

小鹿・竹内・中嶋・松永



アドバイザー講師

窪田 光宏

鈴木 英司

町田 洋

環境調和から見る
生物多様性

2023年11月25日

生物多様性の位置づけ



不安定な危機的状況

(SDGsウエディングケーキモデル)

チームたすきが取組む分野

生態系の健全性の回復

生物多様性国家戦略2023~2030



状態目標1-1

全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している



なりゆきの姿① 生態系ネットワークの崩壊の危機

都市化（土地開発）、森林伐採（資源確保）

→生態系ネットワークの分断と絶滅危惧種の増加

【名古屋市内の生息地の減少】



昭和22年（1947年）



令和2年（2020年）

名古屋市のレッドリスト2020年（対2004年版）

植物：絶滅**82**種（13増）絶滅危惧種**197**種（42増）

動物：絶滅**33**種（15増）絶滅危惧種**216**種（97増）



なりゆきの姿②

保全すべき自然環境の減少

保全活動が実施されているビオトープ2か所を実際に調査！



【岩倉市自然公園】

- 維持管理、開拓資金の不足
- 担当者の属人化、後継者不足

【(株)鈴建下山バークパーク】

- 経営方針により運営が左右
- 経営層の認知不足

- ビオトープの**持続性が低下**（困難）
- **異なる**ビオトープの減少
- 保全される動植物の**バランスが偏る**



なりゆきの姿③

自然資本による経済損失の増加

【生物多様性】 約**68%**減
→年間約**44兆ドル**の経済価値創出を
支える基盤（自然資本）の危機



【**TNFD**】
上場企業は株式会社のうち**0.2%**

【社会の意識】
生物多様性の言葉の認知度：70%
何をしたらよいのかわからない：50%

<緑のモザイク都市>



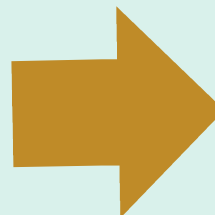
- **生態系ネットワーク**の回復
- **持続可能な**自然の保全（都市部）
- **ネイチャーポジティブ**の普及と実現

【2023年】

分断された自然

【2040年】

生態系ネットワークの回復



動物の移動分散の距離

- シジュウカラ：4km
- チョウ：400-600m
- カエル：200-600m
- トンボ：700m - 3km

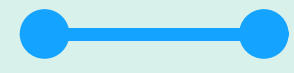


ノリタケの森

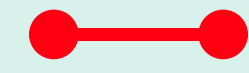
名古屋市立城西小学校
名城公園

白川公園

鶴前公園



4km



700m



GREEN BANKの提案

- ① 点在する学校を飛び石ビオトープに！
→ 異種のビオトープによる多種多様な植生、
生物の回復と保全
- ② 自然環境が同じ場所に持続的に存続すること
→ 持続可能な環境保全システムの構築

AI・ドローン活用、情報技術システム導入、
バーチャル空間利用（管理負担の軽減）
- ③ 大企業・中小企業・下流企業・個人が参加
→ 社会ニーズに適うシステムであること
(ネイチャーポジティブ・TNFD)

GREEN BANK のイメージ図



地域に適正管理された異種のビオトープ
の拠点を増やしていく

持続可能な環境保全システム（リアル）

地域特性に適う
プラン作成

課題の抽出・
有識者アドバイス



運営・維持・
管理・改善

動植物の同定
・観察・調査

持続可能な環境保全システム（バーチャル）

【愛知県】

認証・公認
バーチャル空間

【IT企業】

仮想空間構築
システム管理

【学校】

環境学習
デジタル学習
情報発信

**リアル空間と繋がる
ビオトープコミュニティ**

【出資企業】

情報発信
改善案提示

【会員】

市民・学生・シル
バー世代・移動が
困難な人・外国人



【会員】

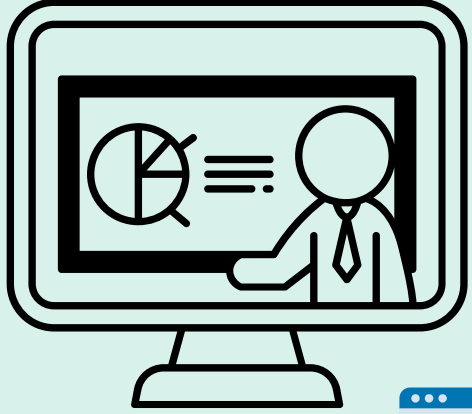
企業
NPO団体
大学等

（その他資金）

- ・会員費
- ・クラウド
ファンディング

リアルとバーチャルの相乗効果

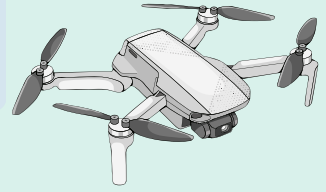
情報発信



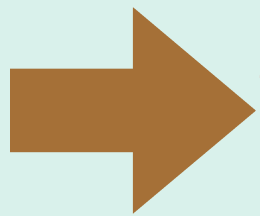
コミュニティ



クラウドファンディング



AI管理



【初期】

【2040年】

ステークホルダーの関わり



GREEN BANK 参画のメリット

愛知県



- 愛知目標における**未達成項目への寄与**
- 高齢化社会への対応
- **教員への負担軽減**

学校



- 子供たちの**ESD教育**
- 学校教諭の負担軽減

企業



- **TNFD評価**
- ネーミングライツ（愛知県認証）
- **就活生、消費者へのPR**
- AI技術の実証実験

研究機関
大学



- **研究データの取得**
- 学生へのPR、優秀な人材の確保

タイムスケジュール

<GREEN BANK開設>2025年

- ①モデル校の指定
- ②モデル校の登録 目標：20校
- ③労働：登録開始
(企業、市民、ボランティア、有識者)
資金：企業からの資金調達
- ④実労働企業の研修

2025年

2030年

2035年

2040年

<モデル事業スタート>

モデル校の実証実験開始

→拡大、追加募集

目標：150校、登録企業・団体：200社

<PDCAによる修正>

<AIによるオート
メーション化>

資金の調達方法

〈GREEN BANKへの資金提供の募集〉

- 企業：1口5万円/個人：1口千円
- ネーミングライツ、定期見学会への参加権獲得
- 企業はTNFDへの貢献活動として報告書の対象地域として活用が可能。

〈クラウドファンディングでの資金調達〉

- 一部でテーマ付ビオトープ構築（虫が集まるビオトープなど）を掲げ、地域外からの資金調達を拡大する。

〈バーチャル活用での資金調達〉

- IT企業の試験場所としての提供費
- バーチャル空間利用会員費
- 環境学習場所としての提供費



具体的なサイト運用

① サイト構築

県からの委託費（30万円）

② 資金集め

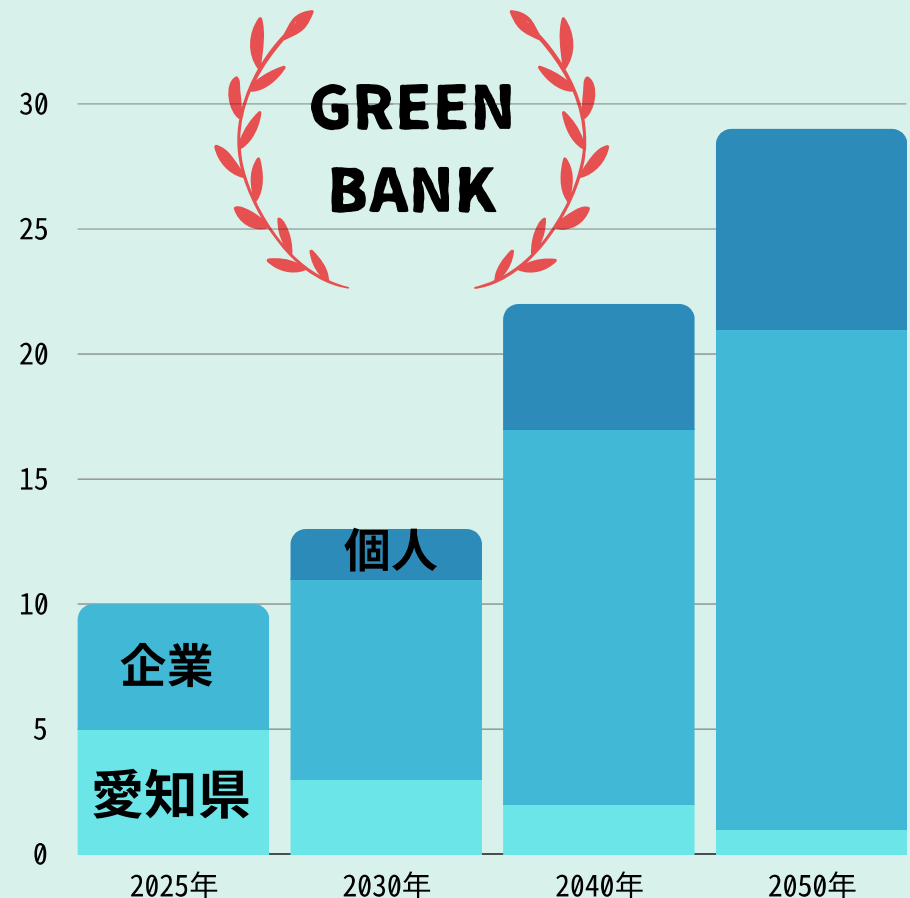
- ・イニシャル1校＝500万円
（新規設置時）
- ・ランニング1校＝年間15万円
（既存はこちらだけ）

③ 学校選定

財源によって実施校数決定

④ 実働

有識者によるアドバイス、ボランティアによる管理



波及効果

〈都市部への効果〉

- 身近な緑によりリラクゼーション効果
- ヒートアイランド現象の緩和



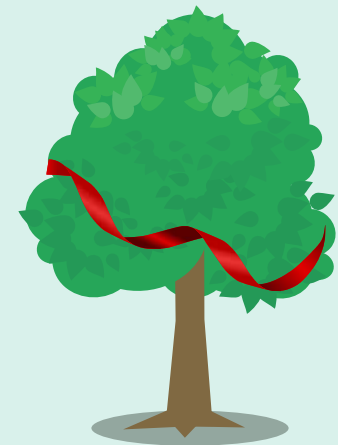
〈市民の精神的な効果〉

- 地域活性化、愛着心の形成
- バーチャル空間を通じた社会の繋がり
- 生物多様性への関心度向上



〈企業への効果〉

- 保全活動への貢献によるイメージアップ
- ステークホルダーによる評価の向上



まとめ

グリーンバンクで人と自然を**繋ぎ**
持続可能な生物多様性を実現する



ご清聴ありがとうございました

